



もゝ太郎

1冊 享保8年(1723) 九や九左衛門刊
縦5.1cm 横3.7cm

掌に収まる程の小さな本で、
 雛本、雛豆本などとも呼ばれ
 る赤い表紙の絵本が、江戸時
 代中頃に出版された。享保の
 改革では、出版の世界にも
 様々な規制が及んだが、この
 ミニ絵本は子どもの玩具とし
 て、許された出版物であった。
 現存するものが、極めて少な
 く、十三点十三冊が現在確認
 されており、その内、本館は
 五点五冊を所蔵している。

館蔵『もゝ太郎』は、うし
 る表紙に一部破損があるが、
 縦五・一穂、横三・七穂、丹
 色（赤色）の無地表紙、貼題
 簽、全十丁の雛本である。
 「昔々、ある所に爺と婆有け

る。爺は山へ柴刈りに、婆は
 川へ洗濯に」で始まり、流れ
 てくる桃を拾おうとする婆と
 天秤棒で薪を担ぐ爺が描かれ
 ている。爺婆は拾った桃を食
 べて若返り、子をもうける。

桃太郎は桃から生まれていな
 い。「桃太郎」の話には、本書
 のように爺婆が若返って子供
 を産むのと、桃から生まれる
 ものとの二系統があり、前者
 の方が、古い型といわれる。

その後は、忽に成長した桃
 太郎が猿・雉子・犬をお供に
 鬼ヶ島へ向い、鬼から宝物を
 得て、あつけなく物語は終わ
 る。絵も筋はこびも言葉も粗
 い。



◀ もゝ太郎表紙(原寸大)

掲出は、婆と桃を食べて先
 に若返った爺。爺が持つのは
 柄鏡で、裏に「天下一」と白
 抜きの文字がある。出版当時
 鏡師が「天下一」と銘を刻む
 ことが行われていたこと、鏡
 が生活の中に普及していた様
 子が、小さな一場面から見て
 取れ、庶民文化の豊かさを窺
 うことができる。

(天理図書館 内藤和子)

天理図書館のお知らせ Tel : 0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>
 ◆平日(午前9時~午後5時半) 土・日・祝(午前9時~午後4時半)
 9月30日は閉館。
 (本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください)